

# おくすりの「相互作用」(のみ合わせ)

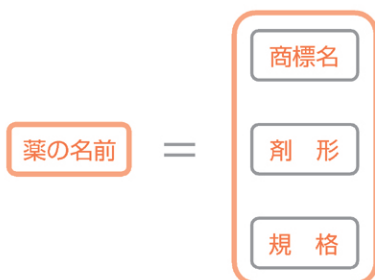


複数の薬を一緒に使うことによって、薬の効果や副作用に影響が  
与ることがあります。これを「相互作用」(のみ合わせ)といいます。  
薬の組み合わせによっては、どちらかの薬を変更することがあります。  
また、相互作用は薬だけではなく、薬と食べ物で起こる場合もあります。

相互作用を避けるために、以下の3つをチェックしておくすり手帳と一緒に  
お持ちすることをおすすめします。

## ● 使っている薬の名前を医師や 薬剤師に伝える

「熱を下げる坐薬」「ピンク色の抗菌薬」  
などでは相互作用を確認してもらうこと  
はできません。薬の名前を正確に伝える  
必要があります。おくすり手帳やおくす  
りの説明書を活用し、医師や薬剤師に使  
っている薬の名前を伝えましょう。



## ● 市販の薬など、家にある薬を一緒に 使うときは、薬剤師に相談する

急に熱が出たなど、症状が変化して家  
にある薬を使いたいときは、薬剤師に相談  
して相互作用を確認してもらいましょう。  
市販の薬の場合も、薬の名前を正確に伝  
えることで相互作用を確認してもらうこ  
とができます。自分の判断で使用するの  
ではなく、相談することが大切です。



## ● 食べ物で気をつけるものがあるか どうかを薬剤師に聞く

例えば抗菌薬のミノマイシンは、牛乳に  
多く含まれているカルシウムと相互作用  
があり、一緒にのむことでミノマイシン  
の効果が悪くなる場合があります。こ  
のように薬と一緒にその食べ物を摂ることで、  
薬の効果に影響がでる場合があります。  
食べ物で気をつけるものがあるかどうか  
薬剤師に相談してください。



もちろん、相互作用がなく、一緒  
に使ってよい場合もたくさんあり  
ます。相互作用を確認してもら  
うことで安心して薬を使用するこ  
とができ、症状が改善していくこ  
とにつながりますので、ぜひご相談  
下さい。

